

大鹿村中央構造線博物館たより 114号



2018年11月発行
TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

台風21号による大鹿村内の被害

9月上旬に日本列島に上陸した台風21号は、関西国際空港の冠水等、国内各地で大きな被害を出しましたが、大鹿村内でも、9月4日夕方から深夜にかけて、激しい風雨に見舞われ、青木川流域、塩川上流域などで、土砂が道路に流出したり、橋が土石流に押し流されたりする被害がありました。後日、大鹿村は、台風の21号の被害について、国から「局地激甚災害」の指定を受けました。

博物館のすぐ南西にある和合地区では、9月4日の深夜に集落の中を流れる和合沢で土石流が発生し、図1の地点①（写真1）のコンクリート製の橋が流されてしまい、地点②の橋に損傷を与え（写真2）、青木川の川岸の地点③に流れ着いてしまったそうです（写真3、4）。



図1 和合・下青木地区主な被害



写真1 図1 地点①橋が流出した場所（現在は仮橋がかかっている）。川の流路に沿って、土石流の跡が残っている。



写真2 図1 地点② 損壊した橋



写真3 流出した橋は②の橋にぶつかって③の位置まで来た



写真4 図1 地点③ 流出した橋が青木川に流れ着いた

和合地区は、中央構造線の西側、伊那山地の急峻な斜面の麓に発達した扇状地上にできた集落です。扇状地というのは、土石流を繰り返すことで形成される地形なので、和合地区では過去にも何度も土石流を経験してきたと思われます。現在は、砂防工事により沢の流路がコンクリートなどで固定されていますが、今回の大雨では、土石流が流路から溢れて流れ下った跡が残っていました（写真1）。

青木川を挟んで反対側でも、2箇所、沢から土砂が流出し、国道152号線を越えて田んぼに土砂が流出しました（写真5）。国道は、一時的に土砂で塞がれ、迂回路となるべき和合地区の橋も壊れてしまったので、ここより南側の地域一帯が、一時的に孤立してしまいました。土砂の流出源を探して、図1地点④の沢沿いの道を上流に向かって歩いていくと、途中の砂防堰堤には、タイヤやカゴなど、おそらくここより上流側に置かれていたものが、土砂と倒木に混じって流れ下ってきてしまった様子が見えました（写真6）。さらに上流に向かって進むと、中央構造線城の腰露頭より数十m東側の三波川帯の斜面に滑落崖が見つかり、地面が数メートルほどすべって、その下部に大量の土砂が堆積していました（写真7）。まだまだかなりの量の土砂が残存していたので、今後も大雨があれば、再び土砂が流出する可能性があります。



写真5 図1地点④ 土砂が流出し国道を越えて田んぼに流入



写真6 城の腰露頭下の砂防ダム

最後に、博物館からはちょっと離れた場所ですが、塩川上流で、道路があったところを川が流れるようになってしまった場所を取り上げます。ここは、三峰様がまつられている蛇紋岩の岩山を、塩川が回り込むように蛇行して流れている場所でしたが、豪雨により、河道が短絡してしまい、道路の上を流れるようになってしまいました（図2、写真8）。道路建設や、入山沢合流部下の砂防ダム建設（写真9）などの人工改変により、河床の高さと道路の路面の高低差が小さくなったために、河道の短絡が起こりやすくなってしまっていたのかもしれない。（宮崎）



図2 塩川上流三峰様の岩山付近の河道短絡



写真7 図1地点⑤ 城の腰露頭の東側の斜面が滑落



写真8 塩川の河道が短絡し、大量の水が道路に沿って流れている



写真9 もともとの塩川の河道を流れる水はわずか